

現場たたき上げ、フィットネスビジネス兄のお悩み相談

その1 「トレーナーで進むべきか、マネージャーに進むべきか」

今日のお悩み内容

現在、26才でトレーナーをしています。日々のトレーナー業には大変やりがいを感じていますが、将来を考えた時にこのままトレーナーで進むか、マネジメントの方向に進むか迷っています。どのように考えたらいいでしょうか？

現場たたき上げの遠藤からのアドバイス

この悩みは実に多いですね！ 案に！
私もスタートはトレーナーでしたから、気持ちにはよくわかります！接客をしたくて入った業界なのに、マネージャーになって数字を見るのはイメージが違いますよね！この件に関する私の見解は明確です。ズバリ！
トレーナーを続けるなら個人事業主になることまでをイメージして進むべし！
企業の中でリーダーシップを發揮したいなら！回はマネジメントに進むべし！



トレーナー職というのは肉体労働です。他業界を見てもわかるように、基本的に肉体労働というのはカラダの限界、収入の限界がやってきます。そのことを見越して今のうちからしっかりマネジメントを勉強する気合いがあるならばトレーナーで進んでみてもいいでしょう。例えば、私がとって不健全だと思って見ているのは、ある程度年齢が進行したインストラクターが「カラダがきついから」などという理由で、静的なイメージがあるヨガとかに進出するケースです。「カラダがきつい」ならレッスンをやめればいいのか、それをすると食べていけないわけです。だから、いつまでもレッスンをやっている。レッスンをやり続けることは素晴らしいことですが、そのこととレッスン以外に武器を持っていないということとは別問題です。この発想では若い

うちしか仕事が出来ません。こういうことを先輩が教えていないのです。

一方、マネジメント経験なく、会社で上層部になるのも危険です。これは本人も部下も悲惨なのです。例えば、30才までスーパーチーフで頑張っていた人が、キャリアを買われて教育関係の責任者に任命されたとします。指名した上司も会心の人事と胸を張り、本人もやる気満々！しかし、それもせいぜい3年でしよう。理由はマネジメント経験を積んだ部下に実力で抜かれるからです。若くしてマネジメントに挑戦した若者達が、上記に該当する上司について「昔ほど濃いと思わない、何が強みなのかわからなくなった」と言うまでにその時間はかからないのです。企業というのは利益で成り立っています。このしくみを理解していない人が組織内でリーダー

になってはいけません。教育や育成の真髄は現場感覚と利益感覚をつなげることにあるのです。専門知識を教えるなら外部のスタッフに素晴らしい人材がたくさんいます。

これでおわかりでしょう！どちらにしても大事なものは「ビジネスマインドを習得する」ということです！この土台あっての将来の栄光！ということになります。



遠藤一佳 Kazuyoshi Endo

トレーナー→SV→企業フィットネス担当→副支配人→支配人→営業部長→営業本部長→役員を歴任後、独立し代表取締役。「フィットネスお悩み相談」他、興業と元気が傳えられるブログ好評執筆中！URL：
<http://www.fitness-biz.net/>